

お茶接待風景

観音だより

岡山市東区西大寺中3-8-8
TEL(086)942-2058
観音会広報委員会発行
平成21年7月16日
題字カット　本村喬生

楽しい行事

7月18日(土)　夜待まつり(額あんどん奉納・会陽太鼓・花火の打上げ)
8月22日(土)　水まつり(盆おどり・灯ろう流し)

転換期

住職　坪井全広

今年は当山の大きな節目です。その一つは「全国都市緑化フェア」です。これには当山にも多数のお参りがあるものと予想され、境内は五百のプランターで飾られました。観音会役員さんに交代で水やりと管理に当たって頂く事になりました。

これとは別に参詣者を歓迎するため、本堂の西側にはテントを張りました。土日と祭日には観音会の女性グループ「みなたる会」の皆様にお茶のお接待と小スペースながら地域の名産品の頒布もお願いしました。

用意万端、こうしてフェアが開幕しましたが、当寺へのお参りは予想を下回り、空振りの感が拭えませんでした。しかし今は「これはこれで良かったのだ」と思っています。

残念ながら、先を見通す力は人間にはありません。五分先を見通す事が出来たら、交通事故も犯罪もないでしょう。世界中の富だって手中にできます。私たち人間が為すべき事は「今できることを一生懸命やる」事だと思います。やればできる事を、やらないで悔いを残すよりも大きな価値があると思います。

観音会の役員さんは真摯にプランターの管理に当たっていただき、みなたる会の皆様にはお参りの方々に温かく接して頂きました。フェアを通じ、当寺と関わりのある皆様の輪が、一回り大きく強くなったと感じています。これは見えない大きな財産です。

もう一つの節目は会陽五百周年です。祝い主には、これにふさわしい御両社にお就き頂き、大いに盛り上げて頂きました。五百周年記念事業実行委員会では、来年の会陽までに様々な事業が計画されていますが、既に岡山市デジタルミュージアムにおいて「西大寺会陽五〇〇年と観音院寺宝展」が終了しました。

そしてもう一つの節目は、当山念願の「牛玉所殿大修復」です。牛玉所殿は古代建築様式を集大成した重要建造物で、文化財指定を目標とした綿密な記録保存と、これに並行して工事が進められています。

百年に一度、と言われる大不況は修復募金計画を直撃し、法人からの浄財は目標を大きく下回っています。遠近の信者さんへのお願いや、瓦の奉納をはじめとする様々な方法で手を尽くしているところですが、目標にはまだ程遠いのが実情です。皆様の格別のお力添えをお願い申し上げます。

観音会会長就任に思う

観音会会長　保都庸太



十二支（ひとまわり）先輩、大森壽夫前会長の突然の死、心よりお悔み申し上げます。

そのあと、はからずも会長という大役をお受けすることになりました。

私は、故大森会長の足跡、人柄、健康状態などを目標としてまいりました。しかし今は目標を失い、自分自身で努力しなければなりません。そして生涯現役でありたいと思っています。

ところで、半年後には五百周年の会陽が始まります。宝木投下時間が早まり、その結果がどうなるのか不安でもあります。

しかし、時代に合わせた改善も必要です。伝統を守りながら宗教行事としての会陽を誇りある遺産として次の世代に確実に伝えてゆく事が私たちの義務でもあり、責任でもあると考えます。

尚、会陽五百周年記念事業として、会陽守護、牛玉所殿修復工事も今着々と進行中。半年後に完成の予定です。

平成二十二年（二〇一〇年）の会陽を契機に、西大寺地域の活性化と信仰心豊かな安全で明るいはだか祭りが実現できるよう祈ってやみません。観音会長としても、微力ながら力をつくしてまいりたいと存じます。

西大寺観音院檀信徒の皆様の絶大なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

お茶のお接待と緑化フェア

みなたる会　長尾好香



第二十六回全国都市緑化おかやまフェアが、旧鐘紡跡地をメイン会場に、三月二十日から五月二十四日まで開催されました。フェア開催中観音院においても多数の参拝者が予想され、参拝者にせめてお茶の一杯でも接待致したいと、みなたる会の方々にご協力を頂き期間中の土・日曜日に境内においてお茶接待を致しました。

残念ながら、メイン会場より観音院への参拝者は、当初予想されたほど多くありませんでしたが、県外よりのバスツアーの方々、四国から瀬戸大橋を渡ってこられた老夫婦、神戸や姫路より高速道路でこられた若者、「二十数年前西大寺に住んでいた者です。子供の頃よく友達とお寺に来て遊んでいたなぁ。」と昔をしばし思い出しなつかしい情感にひたっている方、乳母車に赤ちゃんを乗せた仲睦まじい若夫婦等……。

参拝された方々は本堂にて、観光ボランティアの人より観音院の説明を聞かれた後に、「こんにちは、ようこそお参り下さいました。お茶を飲んでひと休みして下さい。」のひと声から会話がはずみ、そして「ありがとう、とてもおいしいお茶でしたよ。皆さんもお元気でね。」と笑顔で帰っていかれます。

日々忙しく過ごしている私達ですが、観音様のもとで人と人とのふれあいの楽しい時間を過ごさせていただきました。

高野山団参のお世話をさせて戴いて

参拝委員会　妹尾晋吉

今年は三十五名のご参加を戴き、六月六日（土）、ご本尊様のお勤めを済ませ、観音院の皆さんのお見送りを受けて高野山に向け出発致しました。毎年恒例の高野山参拝の出発風景です。三月から旅行計画、参拝者募集等を行い、当日バス席に皆様の安心したお顔でお座り戴いたお姿を見た時、私はほっと胸を撫で下ろします。バスの中には、初めてのお参りの人も居ます、久しぶりにお参りの方も居ます、毎年お参りを楽しみにご参加下さる人も居ます、車内は和やかな雰囲気で一杯です。高野山に到着し、受戒を受けて身を清め、お大師様のおられる奥の院にお参りし皆様でお線香とお灯明を上げて、お勤めを済ますと、心に安らぎを感じます。西室院に一泊し、朝六時から本堂で行われる朝のお勤めに参加してご先祖様を礼拝し、すがすがしい気持ちになって帰ります。貴方も是非一度高野山参拝にご参加しませんか、此れからの人生に生きがいを感じます。人生は此れからです。

西大寺軽便鉄道

(一)軽便の開通と思い出

河本富夫

「ケーベン」と言えば西大寺から岡山まで十二キロを三十分で結び、のどかな田園風景の中をコトコトと走るマッチ箱のような列車で、私達中高年にとって若い時代忘れることのできない懐かしい思い出が残っています。

私事ですが、昭和二十年、十九歳の時、学徒兵として出征の際西大寺駅で大勢の人の見送りを受け、日の丸の波の中父母に別れを告げて征途につきました。

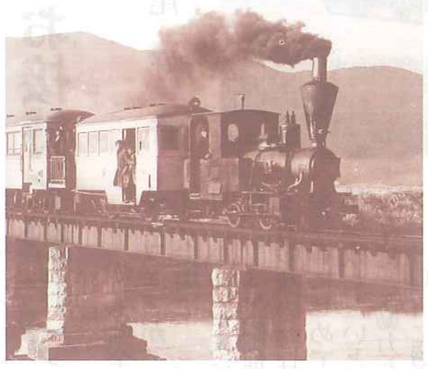
母が私の手をしっかり握りしめ、目に涙をためて「元気でもどってくるんよ。」といった言葉は未だに忘れることはできません。

この時無事に再びこの駅まで帰ってくることができるだろうかと悲壮な覚悟をしたものです。

さて、明治二十四年（一八九一）岡山陽線が開通すると最寄駅は、西大寺から六キロ離れた長岡（現東岡山）になりました。西大寺村では、この時初めて産業において日常生活において、その不便を痛切に感じるようになりました。

そこで岡山と西大寺を結ぶ自前の鉄道をつくる気運が高まり、明治三十九年（一九〇六）当時の町長山口誠至氏と松田与三郎氏ら有力者が協力して西大寺軌道㈱の設立にこぎつけました。

そうして明治四十五年（一九一二）西大寺―森下間が全線開通しました。開通式の当日、観音駅（後の西大寺駅）には万国旗が飾られまだ汽車に乗ったことのない人や大勢の見物人がおしかけ、警官も出動して整理にあたったそうです。



汽車がもくもくと黒い煙を吐いて動き出すと、万歳万歳の声があがり乗客は窓から体を乗り出して手を振ったそうです。

岡山まで十の駅があり昭和六年（一九三一）にはガソリンカーが導入されました。

若き日に召されて征った
さとの駅

〔参考資料　西大寺鉄道〕

お寺より

緑化フェアの際、観音会、みなたる会、他関係者のみなさまには多忙な日々にもかかわらず御協力を頂きました。その真摯なお姿に頭が下がります。

心のこもった一杯のお茶、水やりで美しさを保ったフラワーポットの花に、参拝者の方達は、どんなに癒されたことでしょう。重ねて御礼を申し上げます。

高野山・中国観音霊場団参につきましては、お世話役の方には特に気苦労をおかけしております。中でも一番大変なのは「人集め」だそうです。みなさま、お友達と一緒に参加なさいませんか？　人生で大切な、何かを得られるはずです。

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

ご命日　平成二十一年一月二十五日
（行年九十才）
大森壽夫殿

総代会の新しい顔ぶれ

宗教法人には優遇面が多々あり、反面責務もあります。法人には役員が存在します。その中の一つが檀信徒総代会です。総代会は、当山の事業計画や財産の処分などを決する重要な組織です。

今冬、観音会会長・大森壽夫氏がご逝去されました。

氏は地域公共のため力を尽くされ、当寺の関係では総代・会陽奉賛会会長・牛玉所殿修復奉賛会会長など多岐に亘ってご尽力頂いておりましたが、一月二十五日、九十才の天寿を全うされました。足跡の大きさに改めて感謝するばかりです。

このたび関係者が諮って新たに七名のお方に総代会に加入いただき、左の如く計十一名の強力な総代会が誕生しました。次号から順次、総代さんのご紹介をしてまいります。（敬称略）

松田　堯（㈱両備ＨＤ　会長）
伊原木一衛（㈱天満屋　会長）
保都　庸太（㈲あんしんネット岡山　社長）
大原　保（大原食品㈱　社長）
伊原　正利（西大寺伊原　社長）
藤田　琢二（藤田病院　理事長）
阿部　公明（㈱津田屋　社長）
岡村庄三郎（㈲メディコ　社長）
大森　實（昭和被服総業㈱　社長）
神浦　義勝（㈱神浦建設　社長）
十川重次郎（十川内科医院　院長）

牛玉所殿ニュース

牛玉所殿大修復がいよいよ本年三月から着工されました。現在瓦が取り除かれ、木組みの姿が現れました。足場に上がり間近で拝見すると、太い材木と細い材木が互いに支えあう絶妙なバランスと、その巨大な建築物に改めて驚かされます。

問題の部分として木組みの基礎はしっかりしているものの、特に川沿いの屋根部の腐食が進んでいるのが目立ちます。瓦の強度としては、再使用率が想定50％であったのに対し、25％しか使用出来ない可能性が高まってきました。

このように、工事を進めてみないと分からない問題があり、工事計画、予算の見直しを必要とするなど不安要素が出てきています。

この他にも、皆様の温かいご協力のもと修復寄金もようやく目標額の半分を超えましたが、行き詰まった状態にあり、不安を隠しきれません。

ただ、沈んでばかりもいられません。何としても地域の人々にとって世界へ誇れるお堂に修復させたいと思いますので、今後ともご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

牛玉所殿修復工事見学会
日　八月二十二日(土)　水まつり当日
時　十五時～十七時

皆様の祈願・供養を書き込んでご奉納致します。

※皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

合掌







御案内

浄財喜捨受付中

※寄付者のご尊名は境内に掲げております。

○奉納瓦　一枚　二千円
○一願写経　一巻　五千円

受付　本堂　お守授与所

◎平成21年6月21日現在の修復寄金
1億1936万3896円
残りあと8千万円
（総事業費　2億円）